

小児医療の提供体制の確保について

令和8年4月の地域周産期母子医療センターの集約化・重点化を踏まえ、周産期医療と関連性の高い小児医療の提供体制の確保に向けた呉市の取組について報告します。

1 概況

- 小児医療に関わる小児科医の医師数は、全国的には増加傾向にあるものの、地域的な偏在が大きく、広島県における年少人口（15歳未満）10万人当たりの医師数は、全国平均を下回っています（R4 全国：122.6人、広島県：108.8人）。
- 限られた医療資源（医療従事者、医療機器等）の中で、医療の質の向上と安全性の確保を図るため、医療機関・機能の集約化・重点化が求められています。
- 広島県が令和6年3月に策定した「第8次広島県保健医療計画 地域計画【呉二次保健医療圏】」では、小児医療対策の方向性として、「小児医療と周産期医療はシームレスに関連していることから、周産期医療体制の動向にも注視しつつ、連携体制の構築に努める」ことが示されています。

2 小児医療の体制

(1) 年少人口（15歳未満）の推移

呉市の年少人口は減少傾向が続いており、平成26年度と比べると、おおむね3割程度減少しています。

単位：人

年 度	H 2 6	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
年少人口	26,976	22,934	22,052	21,162	20,057	19,136

住民基本台帳 年度末時点

(2) 病院及び診療所の状況

- 呉市内で診療科目に小児科を標榜^{ほう}する病院（休診中を含みます。）は7施設、小児科の診療所（乳児健診を実施している診療所）は15施設となっています。
- このうち、入院を伴う高度・専門的な小児医療を提供している医療機関は、呉医療センター及び中国労災病院の2施設です。

(3) 小児救急医療体制

- 初期救急医療（比較的症状の軽い患者を対象とする医療）は、呉市医師会が開設する小児夜間救急センター及び休日急患センターで対応しています。二次救急医療（入院・手術を必要とする重症の患者を対象とする医療）は、呉医療センターと中国労災病院が輪番で対応し、三次救急医療（生命に関わる特に重篤な患者を対象とする医療）は、呉医療センターで対応しています。
- 初期救急医療は、開業小児科医、呉医療センター及び中国労災病院に勤務する小児科医が交代制で対応していますが、呉市内の小児科医の減少や、開業小児科医の高齢化、医師の働き方改革による病院勤務の小児科医の時間外労働時間の制限などから、小児夜間救急センター及び休日急患センターの運営に参画する協力医の負担が大きくなっています。

3 呉市の取組の方向性

(1) 呉市東部地域における小児医療機能の維持

- 本市の保健医療は地理的要因や歴史的背景から、東西二つの地域に分かれ、実質的には呉市外の地域をも取り込んだ二つの医療圏が存在すると考えています。
- 小児医療と周産期医療は関連性が高いことから、令和8年3月末をもって、中国労災病院の地域周産期母子医療センターの認定が解除されることに伴い、中国労災病院で提供する小児医療機能についても、在り方の検討が必要な状況にあります。
- 現在、呉市において、小児医療に係る高度・専門的な医療及び救急医療を提供している医療機関は、呉医療センター及び中国労災病院の2施設のみで、中国労災病院における小児医療機能を維持することは、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めるために、大変に重要なことだと考えています。

(2) 初期救急医療運営体制の維持

- 現在、小児夜間救急センター及び休日急患センターにおいて、365日休むことなく、小児の初期救急医療に対応できていますが、小児科医の減少や、開業小児科医の高齢化などの状況が続くと、協力医の確保が困難となり、現行の運営体制を維持することができなくなるおそれがあります。
- 初期救急医療で十分な対応ができない場合、軽症の患者が、二次・三次救急医療機関を直接受診することとなり、対応する医療機関の医師の負担が増大するほか、本来の役割である重症・重篤な患者への対応に支障が生じるおそれがあります。
- こうしたことから、初期救急医療運営体制を維持することは、市民の生命の安全を守るために、大変に重要な課題であると考えます。

(3) 広島大学病院との連携強化（寄附講座の設置）

- 呉市東部地域における小児医療機能を維持するため、広島大学病院に寄附講座を設置し、講座の担当教員（小児科医）が呉市東部地域において二次救急医療体制を支えている中国労災病院において、地域医療研究を行いながら、小児救急医療等の診療現場に参画する体制を整備します。
- 寄附講座の設置により、広島大学病院から小児夜間救急センターに対して小児科医を派遣しやすい環境を整備することで、協力医を安定的に確保し、運営体制の強化を図ります。

(4) 医療版ワーケーションの導入

- 呉市外の医療機関に勤務する小児科医を対象に、年末年始等の大型連休において小児夜間救急センターでの診療活動に従事してもらう医療版ワーケーション（旅費や宿泊費などを呉市が負担）を導入し、小児夜間救急センターの運営に参画する協力医の負担軽減を図ります。
- 大都市圏で働く小児科医が医療版ワーケーションで呉市に滞在し、呉市の風情や歴史、グルメなどの魅力を体験してもらうことで、新たな関係性（関係人口）を構築し、将来的な移住・定住につなげます。

4 今後のスケジュール

令和7年度3月補正予算	寄附講座に係る債務負担行為の設定
令和8年度当初予算	寄附講座、医療版ワーケーションに係る予算計上
令和8年3月中旬	寄附申込み
令和8年4月	新たな小児医療の提供体制のスタート

5 参考（奨学寄附金と寄附講座の違い）

大学ごとに規定が異なるため、小児医療と周産期医療で、それぞれ異なる形態の連携方法での協議を進めています。

区 分	寄附講座 (小児医療：広島大学)	奨学寄附金 (周産期医療：産業医科大学)
派遣医師の人件費	寄附金として呉市が支出	派遣先医療機関が支出
研究等の実施に要する諸経費等	寄附金として呉市が支出	寄附金として呉市が支出
講座等の設置期間	原則2年以上5年以下	定めなし